

## 私が望む街づくり

中央技術(株)設計部

岡山 俊久



### 1. はじめに

私は入社以来約10年、主に道路設計に携わってきました。特に地元茨城の県道・市町村道を中心に行っている為、現地状況を十分把握し現場施工の立場を考えた計画・設計を行うよう日々心掛けています。

戦後の日本は高度経済成長期を境に社会資本の整備が進み、自家用車或いは公共交通機関を使い、各地へ容易に移動できるようになりました。これは、他の先進国と比べても引けを取らないほどです。しかしながら、時に画一的な道路整備は、周囲の街並みとの不調和を招くことがあります。ここでは、昨年イタリアを旅して感じたこと、私が望む道路整備の在り方について述べたいと思います。

### 2. イタリアを旅して

イタリアの街並みは、特に歴史的建造物と周囲の景観に十分配慮されていると思われれます。例えば、首都ローマは、コロッセオやトレビの泉などの建造物が当時のままの状態と保存され、決して孤立することなく、周囲の街並みに溶け込んでいます。地元の人たちの話では、『歴史的建造物の保存』を第一に考えており、趣ある城下町の石づくり家屋は、建替えをするのではなくリフォームを基本としているそうです。また、高速道路や幹線道路等のライフラインについては、日本と同様の道路整備が行われていますが、市街地の道路は凸凹な石畳であり、そのような状況は日本ではとても考えにくいことです。しかしその道路を走ってみると、走行性の悪さは周囲の街並みに吸収され、違和感はほとんどありませんでした。

### 3. わが国の建物・道路

ところが日本の街並みはというと、建物は近代的高層ビル群となり、道路は一様にアスファルト舗装に覆われ、情緒ある街並みが姿を消していく中で、歴史的建造物との不調和、必要性が低いと思われる公共施設等、誰が携わっても同じよう

な建物ばかりが作られ、無駄が街中に溢れていると思います。友人に道路のことについて話す機会が多々ありますが[道路が広くなって走り易くなる]・[公共交通機関が整備される]等、肯定的な意見の反面、[交通量が増えてうるさくなる]・[現在のこの景観を大切にしてほしい]等、否定的な意見を言われることも少なくありません。

### 4. 私が望む街づくり

道路は市民の日常生活や産業活動を支え、また災害時には避難路・救援路等に活用されるなど重要な役割を担っています。そのためこれからも道路ネットワークの整備や道路環境の改善を図っていかねばなりません。しかしそれらすべてにおいて基準書・規格書等に合致したものでなくても良いと思うのです。確かに基準というのは設計を行うに当って必要不可欠であり、それに従うことで効率的にかつ安全性の高い成果が得られます。しかし別の観点から考えてみると、全てに同じ基準を適用させてしまうことは、景観が単調になり、歴史・風土ある都市では魅力を損なってしまう恐れがあります。例えではありますが、前述のイタリアのように凸凹な石畳道路にしてみたり、旧き良き時代の街の歴史・風土・文化等の特性を尊重し、その地域がもっと引立つような計画・設計をしていきたい。そして、地域の街並みと道路とが調和の取れた、魅力ある街づくりをしていくことが私の夢です。

略 歴：岡山 俊久

1975年 茨城県水戸市生まれ

1994年3月 中央工学校卒業

1995年4月 中央技術(株)入社

現在に至る

保有資格：技術士補（建設部門）

測量士

2級土木施工管理技士